

ISO14005と簡易版EMS

国際標準化機構(ISO)が、中小企業などを想定した「環境パフォーマンス評価を含む環境マネジメントシステム(EMS)の段階的適用のための指針」(ISO14005)の策定作業を開始したことで、国内の「簡易版EMS」各制度にも影響を及ぼすことが予想されている。各制度の淘汰につながる可能性については否定する声が多いものの、各地で普及が進んでいるだけに、制度を利用したい事業者にとってはその選択に戸惑いが生じる可能性もある。(池田 正史)

簡易版へ乗り換えも

現在では、環境省主導の「エコアクション21」(EA21)やトラック、バス、タクシーなどが対象の国土交通省主導の「グリーン経営認証制」

「度」、京のアジェンダ21フォーラムのKES認証事業部が運営する「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード」、「エコステージ」など、省庁や自治体から民間まで様々な簡易版EMSが運営され、認証取得

までの費用や手間が比較的少ないことから普及が進んでいる。大企業のグリーン調達基準や官公庁の入札参加条件の評価指標に盛り込まれるようになってきたことから、その認知度も向上。「ISO14001からEA21に乗り換え

ISOの相違が不明確だ」と指摘されるなど、その選択に戸惑う事業者もあるとされる。

受け止め方は様々

そうした中、ISO自身が中小企業を想定したISO14005の策定

「事業者のニーズに合わせる各運営事務局では、EA21はそもそも、パフォーマンス重視であるため、ISOとは同じ次元で比較できない」(地球環境戦略機関・持続性センター)、「あまり大きな影響はないだろう」(KES認証事業部)、特に業種・業態に合わ

各制度にも影響の恐れ

事業者側は選択に迷い

「事業者のニーズに合わせる各運営事務局では、EA21はそもそも、パフォーマンス重視であるため、ISOとは同じ次元で比較できない」(地球環境戦略機関・持続性センター)、「あまり大きな影響はないだろう」(KES認証事業部)、特に業種・業態に合わ

有効な制度構築を

「事業者のニーズに合わせる各運営事務局では、EA21はそもそも、パフォーマンス重視であるため、ISOとは同じ次元で比較できない」(地球環境戦略機関・持続性センター)、「あまり大きな影響はないだろう」(KES認証事業部)、特に業種・業態に合わ

て、帝京大学の吉澤正教授は、「この制度も最終目標に環境負荷削減を挙げていくため、EMSのすそ野拡大に効果があることは間違いない。しかし中小企業にもグローバル化の影響が及んでいることを考えると、最終的には国際整合性のあるISO14001の位置付けられている。それぞれの達成状況も、自主的にチェックすることが合意されている。ただ、この達成度合いが何らかの意味を持つようになると、将来、存在意義を問われる簡易版EMSも出てくるかもしれない。中小企業にとって、本当の意味で有効な制度が生き残っていくのではないだろうか。